



「築地名苑真景・草木虫魚写生図巻」(部分) 江戸時代 19世紀/徳川美術館蔵



「本草図譜」
岩崎瀧園筆
江戸時代 19世紀
名古屋市蓬左文庫蔵

美しき
博物図譜



「獣類写生」(部分) 山本溪山筆/江戸時代 19世紀/西尾市岩瀬文庫蔵

博 博物学は、動植物など自然物を観察し、その種類や性質・産地などを分類して記録する学問です。日本では、東洋医学における薬学である「本草学」として古くから研究され、江戸時代には中国や西洋の新たな研究の影響を受けながら大きく発展しました。「図譜」はその研究成果の一つで、今でいうところの図鑑であり、対象が正確に、わかりやすく記録されています。ただ、写真のように対象をそのまま写し取るといってわけではなく、科学の眼で取捨選択された情報によって構成されているのが特徴です。

知的好奇心と、探求への情熱に満ちた博物図譜の諸相をご覧いただくとともに、伊藤圭介らの活動を中核とする尾張地域の博物学についてご紹介します。

本草学から
博物学へ



「花くらべ」(部分)
栗堂筆
江戸時代 17世紀
種花園文庫蔵



「植物標本」
着池有英旧蔵/江戸~明治時代 19世紀
愛知県立旭丘高等学校蔵



「安喜多富貴印葉園」伊藤圭介筆/明治15年(1882)/名古屋市東山植物園蔵



「錦室植物園説」
伊藤圭介筆・編
江戸~明治時代 19世紀
名古屋大学附属図書館蔵

尾張徳川家と
本草学



上:「群蟲真景園」(部分)
下:「群芳帖」(部分)
徳川慶徳(尾張徳川家14代)収集・編
江戸時代 19世紀
徳川林政史研究所蔵

